



同窓会だより

新潟大学歯学部同窓会山形県支部 発会式に出席して

同窓会会長 神田 正一



昨年の10月23日(土)、秋も深まって来た山々をバスの車窓から眺めながら、新潟から山形への小旅行を楽しんで来ました。新潟大学歯学部山形県支部の発会式に招かれ出席するため

です。当日は、風が少し冷たく感じられる日和りでしたが、会場の山形市内のホテルでは結婚式が数多く行われており、華やいだ雰囲気でした。

記念写真の撮影が行われた後、夕刻5:30より発会式が開催されました。山形県の同窓生の皆様と多数の来賓(山形県歯科医師会役員、各大学同窓会山形県支部長、新潟大学歯学部長代理の野田教授、そして私)の出席の元、にぎやかにそして厳かに会は始まりました。最初に五十嵐雄一支部長の挨拶があり、この度の支部設立は、ここ数年来、若い同窓生の開業が相次ぎ、その気運が高まってきたからとの、これまでの経緯を述べられ、これからの会運営の決意を話されました。そして、各来賓の挨拶が続き、私も同窓会本部の現状、母校の様子等をお話しさせていただきました。続いて、鏡開きが行われ、懇親会へと移って行きました。

セレモニーの後、杯を酌み交わしながら山形県の同窓の方々といろいろな話をしました。支部長の五十嵐先生は4期生、副支部長の伊藤敦信先生は9期生と、お二人の顔は学生時代以来20数年振りでしたが分かりましたが、後の先生方は若い方ばかりで、初めてお話をした方ばかりでした。会半ばで自己紹介があり、それぞれ地元で頑張っている様子がしっかりと受け取れました。会員数

は20名程ということでしたが、その絆の強さを感じられ、又、地元歯科医師会でも活躍されている様子がよく分かりました。今回の発会に当たり、いろいろ準備されて来た五十嵐先生、伊藤先生そして幹事の桜井久夫先生、皆さん大変ご苦勞様でした。これからも若い先生方と一緒に、そして後輩達の為にも、是非、会を盛り上げて行って欲しいと思います。

昨年中に、神奈川県支部そして山形県支部と2つの支部が設立され、全国で15支部となりました。同窓会としては本当に喜ばしいことです。全国各地で活躍している同窓生の皆さん、たとえ母校から遠く離れていても同窓の仲間と集えるということは、ほっと安らげる瞬間ではないでしょうか。小規模でも構いません、全国各地でこうした支部の設立が見られる日を楽しみにしております。

脳卒中での障害を実際に見て聞いて理解

—平成11年度同窓会学術講演会—

新潟大学歯学部口腔解剖学第一講座

16期生 池亀美華

10月24日日曜日、NEXT21の市民プラザホールにおいて、新潟大学脳研究所の相馬芳明先生より、「脳の構造と機能—脳血管障害で人はどのようになるのか—」と題してご講演を頂きました。本来





ならば非常に難しい内容を、わかりやすい言葉とメディアを駆使して、午前10時より午後4時までほぼ丸一日を費やして講演していただけるという、とても贅沢な講演会でした。この度の会は歯科衛生士会との共催で、歯科衛生士、歯科医師のほかにも多くの看護、医療関係者、学生の皆様にご参加いただき、聴衆の数は100人近くとなりました。講演のわかりやすさと脳機能障害への関心の高さが相まって、会の最後には会場から活発に質問が出されました。

学術委員一同、今後も同窓会の皆様の学術的興味を刺激し、役立つ企画を立てて参りたいと考えております。ご意見ご希望など、お近くの学術委員までお寄せ頂ければ幸いです。

「脳の構造と機能」

新潟大学脳研究所神経内科助教授 相馬芳明先生のご講演を拝聴して

16期生 小島 雅之

高齢化社会の到来とともに歯科医療従事者は積極的に発声咀嚼嚥下障害に関わっていかなければならなくなりつつありますが、この度の相馬芳明先生のご講演では、脳損傷部位と症状出現との関

係や臨床現場での診断治療予防の現状をスライドやビデオを交えて解りやすくご説明いただき、口腔ケアやリハビリを実践して行く上で大変役立つ内容でした。

前半は、要素的な機能障害として、疾病の症状と損傷を受けた神経核や神経との関連を具体的に説明いただきました。CTやMRIの精度も増し、現時点では直径数ミリの小さな病変でもほぼ確実に見つけられるとのことで、その診断力の目覚ましい進歩には驚かされました。後半は、高次脳機能障害のうち、歯科領域と関連の深い失語症に重点を置いてご講演頂きました。百聞は一見に如かずで、各失語症の特徴や言語特有の難解な専門用語も動画音声を交えた説明で抵抗なく理解できました。講演後の質疑応答では、発病後の治癒や機能回復の可能性に関する質問が多く出されましたが、失語症に関しては回復期を過ぎると症状は変わらないか僅かに改善する程度だそうで、今後のより一層の医療の進歩に大いに期待したい所あります。

お陰様で今回、脳損傷部位と症状との関連を一步踏み込んで理解できましたので、引き続き口腔ケアや誤嚥予防、リハビリに関する実践的な講演を企画頂けたら更に有益ではないかと思われま。休日のせい参加者が少な目だったのが少々残念だった気もしますが、大変有意義な一日でした。相馬芳明先生、同窓会スタッフの先生方、並びに関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

第42回全国歯科大学同窓・校友会懇話会について

同窓会副会長の神保陸郎先生が同窓会誌に掲載予定のものを、抜粋して歯学部ニュースにも掲載させていただきます。

日 時 平成11年11月27日(土) 午後2時～5時30分

場 所 横浜シンポジア





当 番 校 神奈川歯科大学同窓会
来賓挨拶

1) 衆議院議員 小泉 純一郎

「100歳以上の老人が1万1千人を超え、年金受給者は年100万人の割合で増えている。社会保障制度の見直しが必要であると同時に、若人につけの回る赤字国債に頼らない財源確保が急務である。日本は税金と保険料の折半で財源を補っていること、ならびにスウェーデンやデンマークでは消費税25%でやっていることからみても、国民の反発はあるが日本でも景気に左右されることの少ない消費税の値上げをやらなくてはいけない。」

2) 日歯副会長 梅田 昭夫

「歯科の保険点数・件数ともひどく、医科・歯科の格差を無くさなくてはならない。薬価差益のない歯科は技術評価の財源が与えられず、十数年にわたり報酬改定の引き上げ率は極めて低い水準に抑えられてきた。『もの』と『技術』を分離して技術料比率に応じた配分を中医協に要求する。」

全歯懇会議「歯科医師会未入会者問題について」

提言者 東京都歯科医師会会長 西村 誠

福岡県歯科医師会副会長 中村 直

ディスカッション(座長)

神奈川歯大同窓会長 内村 登

ディスカッションでは同窓会による在学生に歯科医師会入会を促す働きかけの意見が多かった。神保は「歯科医師会会員が不平を言っている会では未入会者が多くなるのは当然である。一般会員の意見が執行部に届く血の通った歯科医師会であって欲しい」と提言した。

協議

1) 次々期当番校選出…朝日大学

2) その他

次期当番校挨拶 明海大学

閉会のことば

神奈川歯大同窓会副会長 笹原 盤雄

平成11年秋の新設国立大学歯学部 同窓会連絡協議会報告

同窓会理事 赤坂 長右

横浜で行われた第42回全歯懇に引き続き、翌日、今回は本校が当番校として表記会議を開催いたしました。

日時：平成11年11月28日(日)午前8時45分～11時45分

場所：東京シティホテル

【新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会】

1. 開会の辞

新潟大学歯学部同窓会副会長 神保 陸郎

2. 当番校挨拶

新潟大学歯学部同窓会会長 神田 正一

3. 出席者紹介

4. 講演 「21世紀の歯科保健医療の展望」

講師：厚生省健康政策局歯科保健課長

瀧口 徹

本学部第6回卒業の瀧口 徹氏は、国の歯科保健行政のトップといわれる歯科保健課長の立場で講演されました。「歯科保健・医療・福祉の現状と課題」と題した50ページにも及ぶ膨大な冊子を資料に、1時間半という短い時間の中で話は多岐に渡りました。同窓会誌第20号に詳細については記載しましたので、できれば参考にお読みください。

5. 協議

1) 同窓会と学部との交流・連携について

事前に行ったアンケート結果をもとに意見交換をしました。教官・学生との交流や学部との連携行事など、各校各様でした。本同窓会として、これらを参考にして今後の同窓会運営に活かしていきたいと感じました。

2) 次々回以降の当番校について

次々回当番校は広島大学歯学部決定

3) その他

6. 閉会の辞

新潟大学歯学部同窓会副会長 神保 陸郎

